



日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

業界発展のための活動を目指す



2019年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
まずは、日頃より我が国の筆記具業界の発展のために、多大なるご尽力ならびにご理解をいただいております各社の皆様に感謝申し上げますとともに、本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、我々の業界を取り巻く環境を見てみますと、国内では本年10月には消費税が8%から10%へ移行され、購買動向に大きな変化があると思われます。また世界情勢へ目を転じますと、アメリカと中国の貿易摩擦やアメリカ国内での文具関連流通の大きな変化、中東諸国の政情不安定、EUを取り巻く国々の問題等、我々を取り巻く市場環境は厳しいものが予測されます。また恒例となりました日経MJヒット商品番付の発表では、この数年間は

我々文具業界関連商品が常にランクインしておりましたが、残念ながら2018年はランキングには入りませんでした。世の中の文具ブームの波がやや引いた感もありました。

そうした中、明るい話題としましては、来年に控えた東京オリンピック・パラリンピックに向け多くの海外の方々が、これまで以上に日本に來られ、インバウンド需要も増し、我々の製品を広くアピールができるチャンスと考えられます。さらに我々の身近な海外であります、アジア諸国の経済発展や教育環境の向上は継続が予測されます。文具の業界がまた注目をいただけるような高いレベルの付加価値商品や高品質商品を各社が切磋琢磨し競って開発していくことで、再び文具へのマスコミを中心とする世の中の追い風が吹くと思っております。こうした我々業界各社がたゆまぬ努力を続けることで、これまで以上の成果を上げることができると信じております。

また上記のような各社での活動もとても大切な事ですが、日本筆記具工業会としましては以前より進めております業界全体の発展を目指す活動であります、我々の製品を世界各国の規格・規制等に適合させる活動や国際間での知的財産権での権利確立に関する活動等は、しっかりと継続して行きたいと思っております。また、昨今さまざまな業界や行政も注目しております、クレマーへの業界対応基準の策定も進めて行き、各社の負荷や対応されておられる社員の方々のメンタル面での軽減に向けた活動も、筆記具業界全体として進めて行きたいと思っております。

こうした業界活動の一環としまして、日本筆記具工業会では毎年12月に講演会（勉強会）を行っておりますが、今回はロボット義足や競技用義足の分野で日本の最先端テクノロジーを牽引されておられる、遠藤謙先生にお話をいただきました。その講演の冒頭で遠藤先生より「私は最終論文等はパソコンで仕上げますが、研究中は常に自筆でノートを書き、義足イメージも手書きデッサンをしています。」とのお話しや実際に手書きされたノートやイメージ図案がスクリーン投影されました。改めて筆記具に携わる企業としてこうした創造的な取り組みにお役に立てているという励みとともに、筆記具を使われる多くの皆様に対しより高付加価値で高品質な商品を開発・提供していく責任を感じました。

最後になりますが、2019年が文具業界および関係各社におかれまして、よき年になりますよう心よりお祈り申し上げますとともに、本年も日本筆記具工業会への更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

2019年1月

日本筆記具工業会 会長 石川真一

平成30年度 年末講演会 「世界で最も速く走れる義足～ロボット義足の実用化を目指す～」 2018.12. 3 上野精養軒にて【講演録】

JWIMA 恒例の年末講演会を 12 月 3 日上野精養軒にて開催いたしました。参加者は約 70 名。

今回は、「ロボット義足」や「競技用義足」の開発で話題になっている遠藤謙氏を講師にお招きし、「世界で最も速く走れる義足～ロボット義足の実用化を目指す～」というテーマでお話をいただきましたのでご紹介いたします。



【講演録（抜粋）】

私は、身近に文具店を営んでいる知り合いがいたり、家族全員が文具好きということもあって、以前より文具にはたいへん興味を持っていました。今回このような場に呼ばれたのは自分だけでなく、家族一同光栄に思っています。

私は、最終論文等はPCで仕上げますが、研究中は常に自筆でノートに書き、義足イメージも手書きデッサンしています。アメリカに留学中の時はいい筆記具がなく、帰国するたびに日本の筆記具を買いだめしてアメリカに戻っていました。

私は、最初はホンダのアシモにあこがれてロボット工学を研究するようになりましたが、後輩が骨肉腫で足が不自由になったため、その後輩のために力になろうと義足やロボット義足の研究を始めるようになりました。また、外国生活中に凍傷で両足とも義足になったロッククライマーに出会ったこともこの道に入ったきっかけでした。

事故などで体の一部を失った方々を一般の人とは違う障害者として見ていますが、失った部分を補うテクノロジーが追いついていないだけだと私は考えています。例えば眼鏡を見てください。本来なら視力障害というものを、眼鏡という技術によって誰もが普通に生活できるようになっており、今ではファッションアイテムにもなっています。私はそのように、義足でもテクノロジーで同様のことができると思っています。





ちょうど2020年は東京パラリンピックがあります。こういう時には身障者のことが話題になって、企業もお金を出してくれます（逆に言うと、こういう時にしかお金が出にくいのは困る）。少しでも話題になればこの業界としても幸いです。義足は身障者のためのもので、健常者は関係ないと思っているかもしれませんが、健常者も年を取ると歩けなくなったりします。テクノロジーを使って、ある特定の障害については、区別がなくなる時代が来る、これが私の夢です。

（了）

講演後、遠藤氏を囲んで出席者全員で記念撮影を行い、その後懇親会に移りました。懇親会の冒頭石川会長より「今年の筆記具業界を見返すと、はっきり言ってよくなかった。日経トレンディのヒット商品ベスト30にはこの業界の商品は一つも取り上げられなかった。一時期もてはやされた筆記具が社会からちょっと見放されつつあるのではないか。ほかの業界ではおもしろい新製品が出てきている。各社ともそこそこの業績は残しているが、まだまだ足りないように思う。各社とも頑張って、これからも前向きに進んでいこう。私の任期はあと半年ではあるが、各社にとって有益な施策を今考えている」との挨拶がありました。



スポーツの世界で板バネを使った義足はすでに健常者と同じくらい速く走ったり遠くまでジャンプできたりするところまで来ています。ただ、日常生活の細かな部分ではまだ対応しきれていない部分があります。

ロボット義足も立ったり座ったり、時には人間以上の重いものを持ち上げたりすることができますが、人間には簡単に見える、飛び石を飛んだり、階段を上がったりするのは難しくできません。これからも、まだまだ両者の研究を重ねていかなければならないと思っています。

その後、経産省製造産業局生活製品課大滝課長補佐からご挨拶を頂戴し、数原副会長の発声で乾杯し、歓談がおこなわれました。やがて予定の時間が訪れましたので、小川副会長が中締めの挨拶を行い閉宴となりました。

第 15 回「JWIMA 会員研修会」開催

11月1日東京・柳橋のベルモントホテルにて、第15回 JWIMA 会員研修会を開催しました。この研修会は、会員同士の情報共有と交流をはかるために毎年実施しており、講座も会員のニーズに合わせて各分野のスペシャリストに講師をお願いしています。今回は 50 名あまりが出席、それぞれの講義に熱心に耳を傾けていました。〈以下、講演録（抜粋）〉

【第一部】 IoTとAIを活用した中小製造業の経営戦略

講師：竹内幸次氏（中小企業診断士、(株)スプラム代表取締役）

【講演録（抜粋）】

IoT と AI を活用してどのようなことが出来るようになるか。

いま①IoT、②ビッグデータ、③AI、④ロボットによる第4次産業革命が起こっています。動力の獲得、革新、自動化に次ぐ新たな産業構造の变革の契機として、我が国経済へ大きな影響を与えるものと考えられます。

IT 投資を行う中小企業の方が売上高・売上高経常利益率も高く、売上高に関しては実に3倍の差が出ています。

ビジネスチャンスとしても 2018 年 11 月から電通が「個人データ銀行」を開始しました。マネーを預けるための銀行から情報を預ける機関へと変化しています。スマートフォンのデータを個人データ銀行に預けると、様々なデータから統計を出し、企業が必要な情報を手にすることができます。その際使用した利息として、元データを提供した個人に利息が入ります。これにより企業は商品開発にもつながります。2020 年以降は 5G により従来の 100 倍のスピードでビッグデータを送れるようになる見通しです。あらゆるモノや情報がインターネットを通じて繋がり、それらが互いにリアルタイムで情報をやり取りしつつ（相互協調）、人の指示を逐一受けずに判断・機能し（自律化）、システム全体の効率を高めるとも

に新たな製品・サービスを創出するのです（高度化）。

例として、タイヤのミシュランは売上方法を変えました。客はセンサーの搭載されたタイヤを購入し、走行距離に応じて課金される。IoT は物の価値から使用価値へと稼ぎ方も変えるのです。

AI は第3次ブーム（ディープラーニング）に入りました。特徴量を自ら設計し、概念を自ら生成でき（特徴表現学習）、画像認識の精度の向上をはじめとした技術革新によって「目を持った機械」が開発可能になりました。産業の生産性を向上させるには、分野を跨いで多様なサービス・製品を創出し IoT と AI を活用したものづくり・流通・の融合化、効率化が必要となります。それにより、2045 年にはシンギュラリティ（技術的特異点）と呼ばれ AI が人間の知識を超え、サービス・製品が次々生み出させる社会を構築することができるようになります。

では、人間は何をするのか。AI が自動的に仕事をし、人類は富を受け、BI（ベーシックインカム）が実現します。しかし、BI が行き過ぎると人間の働く喜びをも奪ってしまうのではないかと危惧します。

物流への影響はというと、製造・物流・販売をデータで連結し在庫量に応じた自動受発注、画像認識システムとロボットを組み合わせることで人による作業の削減へと変化します。

そして、近い将来人間の感情を認識したコミュニケーションを行うロボットが接客を行うようになるかもしれません。

（了）



【第二部】 破壊的イノベーターになる方法 ～実践編

講師：玉田俊平太 氏（関西学院大学 専門職大学院経営戦略研究科 教授）

イノベーションという言葉は様々なところで使われていますが、時代と共に企業にとっての意義という理解が変わってきています。100年前は「新結合」と訳され、60年前くらいに「技術革新」と言う言葉に変わりました。

「イノベーション」という言葉の語源は、ラテン語の Innovare（インバーレ）で、何かを新しくすることの意味です。アイデアに新規性があることで特許が取れたとしても、それが商業的に成功するとは限りません。アイデアは、社会で広く実用に供せられてはじめてイノベーションと呼べるようになります。すなわち、そこには経済的成功が暗然的に含まれているのです。このような意味から私はイノベーションは「創新普及」と訳するのが一番合っていると思います。

歴史ある大企業には、長年にわたる技術の蓄積や、きちんとした製造能力、きめ細かい販売網やサービス網があり、既存顧客との信頼関係やブランド力もある。しかしながら、そんな企業が新しい会社に競争で簡単に負けてしまうことがあります。ビジネス誌などは、「経営判断を間違えたから…」と説明することが多いですが、一概にそうとは言えないケースがいくつもあります。持続的イノベーションの上手い優良企業が、特定の種類のイノベーション（破壊的イノベーション）にうまく対処できず打ち負かされてしまうのです。クリステンセン教授は、これをイノベーションのジレンマと名付けました。

破壊的イノベーションを成功させるためには「無消費者をターゲットにする」という方法があります。無消費とは、何かの制約によって消費が妨げられている状態で、①専門的なスキルが必要、②欲しいが高くて買えない、③特定の場所や状況でしか使えない、④面倒もしくは時間がかかりすぎる、などがあれば「新市場型」の破壊的イノベーションを生み出すチャンスです。

「無消費者」がいない場合、「満足過剰」の顧客を探しましょう。満足過剰の状況とは、ある性能がこれ以上向上してもそれが満足の向上につながらない状況のことです。車の最高速度や湯沸かしポットの機能、床屋のサービスなど、もうお腹いっぱいでお代わりもらっても満足度が向上しない顧客には、「必要十分」なシンプルで低価格のソリューションを提供することで「ローエンド型破壊」のイノベーションを起こすことができる。無印良品などがその例と言えます。

破壊的なアイデアは多様な人材を集めた正しいブレインストーミングから生まれます。ここには7

つのルールがあります。1、価値判断はあとです。2、ワイルドなアイデアを促す。3、他の人のアイデアに上乗せする。4、数を求める（意見をたくさん出す）。5、一度に一人が話す。6、主題に集中する。7、可視化する（意見をカードに書いて貼り出す）。



次に、大量に出てきたアイデアの中から、有望なものを選び出します。出てきた膨大な数のアイデアをすべてを商品化するのはリソースの面から不可能ですし賢明ではありません。アイデアを選ぶにあたっては、似たアイデア同士を「アイデア・レジュメ」にまとめ、チェックリストに照らし合わせてふるいにかけます。そしてスコアリングして「破壊度」を計測します。そして破壊度と自社での実現可能性、見込まれる長期的な利益、その判断に対する確信度を一枚の図にマッピングして評価するのです。

この時気を付けなければいけないのは、今までの組織の能力を使わないことです。今まで組織の能力を生み出す源泉となっていた「プロセス」や「価値判断」も、組織を取り巻く状況が変わると組織の無能力(!)の決定的な要因となるからです。

チェックリストはこうなります。初年度のターゲットは？マス市場でも大規模市場でもない「ニッチ市場」が10点。顧客はそのことをどう片づけたいか？うまくても安くでもなく「もっと容易に」が10点。顧客は製品やサービスをどう考えているか？完璧でも優秀でもなく「必要にして十分」が10点。価格は？高価格でも中程度でもなく「低価格」が10点。他社にとってこのビジネスモデルは？従来通りでも多少の変更でもない「根本的に異なる」が10点。市場へのチャネルは？すべて既存でも半分以上新規でもなく「まったく新しい」が10点。競合他社はこの戦略を？すぐに対応したいでも注目しているでもなく「気にしていない」が10点。初年度の収益は？多額でも平均的でもなく「少額」が10点。この1年間の投資は？平均以上でも平均

的でもなく「平均以下」が10点。これで、90点に近いものが破壊的なアイデアということになります。

では次に、アイデアの破壊度と自社の能力・欲求による実現性の評価を試みましょう。アイデアの破壊度が低くて、アイデアを実現させる能力と欲求も低いものは長期的な利益の可能性が大きくても却下です。確信度や長期的な利益の可能性が低くても、アイデアの破壊度とアイデアを実現させる能力と欲求が高いものは実行すべきです。その間のものは要検討として保留。特にアイデアの破壊度と判断に対する確信度が高いものは、たとえ能力や欲求、利益の可能性が低くても温存しておきましょう。環境が変わるかもしれません。

次に、どこでその事業を行うかということですが、ソニーでは5人以下のグループで新規事業を立ち上げられる制度があります（Seed(種子)アクセラレーション(加速度)プログラム）。まさに破壊的事

業を生み出す取り組みです。このように客観的な組織を自社内に作ることができればそれがベストですが、なかなかそうもいきません。自社内で行うことが難しい場合は、他の破壊的企業を買収することも選択肢となります。新しい酒は新しい革袋に任せるということわざがあります。ただ、その場合は次のことをしっかり肝に銘じなければなりません。1、資源を買うのかビジネスモデルを買うのかを明確にする。2、買収先企業の価値を正確に見極める。3、妥当な条件で買収契約を結ぶ。4、買収した企業を適切にマネージする。

今後、有望な市場には破壊的なイノベーションが起こるでしょう。いくつもの市場をいっぺんに飲み込み一つの市場とするイノベーターが出現するかもしれません。業界の枠は取り払われ、どんどん異業種からの参入があるでしょう。私たちは何ができるでしょうか。多くの人や企業は、おそらく何もできません。（了）

第15回 JWIMA 会員親睦ゴルフコンペ

2018. 12. 6 東京ゴルフ倶楽部にて

12月6日、埼玉県狭山市の東京ゴルフ倶楽部にて、第15回JWIMA会員親睦ゴルフコンペを開催いたしました。出席者は4組16名で、それぞれ日頃の腕を競い合いました。



▲優勝(左)
吉川浩喜氏



▲準優勝(右)
石川真一会長

当日は午前中小雨がぱらついていましたが、午後からはそれも上がり、気温もそれほど下がらず気持ちよくプレーをすることができました。

コースは、今年改修が行われたばかりできれいに整えられていました。ただ去年と違っていたのは、バンカーがかなり増えており、皆さんこれに悩まされていました。なかにはバンカーに囲まれた花道のないグリーンもありました。

そんな中、みごと優勝を果たしたのが吉川浩喜氏(株サクラクレパス)でした。また、惜しくも準優勝となったのが、昨年の優勝者であるJWIMA石川真一会長でした。お二人ともおめでとうございました。

次回もまた素敵なコースで企画しますので多数ご参加ください。



▲パーティー(表彰式)

優良工場見学会 開催

2018.11.16 JAXA 筑波宇宙センター、麒麟ビール取手工場

11月16日、日本筆記具工業会は日本鉛筆工業協同組合との共催により「優良工場見学会」を開催しました。参加者は12名。今回は茨城県にあるJAXA 筑波宇宙センターと麒麟ビール取手工場の見学を行いました。



JAXA 筑波宇宙センターでは、ロケット広場で記念撮影をした後、展示館であるスペースドームへ移動。解説員の説明を聞きながら館内を一周しました。

これまで日本が打ち上げた各種人工衛星の試験モデルが種別毎（ミッション毎）に展示されて

います。データ中継衛星の「こだま」、技術試験衛星の「きく」、陸域観測技術衛星「だいち」、超低高度衛星技術試験機「つばめ」、水・気候変動観測衛星「しきさい」など。

また、国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟の実物大モデルや、宇宙ステーショ

ン補給機「こうのとり」の試験モデルなど、立ち入って中の様子をうかがうこともできました。

人工衛星は、新しくなるほど小型軽量化してコンパクトになってきているのですが、ミッションによって大きい機材を打ち上げるときもあり、その重量によって打上げ機も使い分けられています。

他にも小惑星探査機「はやぶさ」の1/2 模型や月周回衛星「かぐや」の月面撮影したハイビジョン映像など、つい見とれて長居していました。

昼食は、つくば研究支援センター内の洋食レストラン「アンジェ」でロストビーフのランチをいただき、午後の見学地「麒麟ビール取手工場」へと向かいました。

麒麟ビール取手工場は、国内麒麟9工場の中で製造量が最大の工場で、缶ビールを1日638万本製造できる能力を持っています。主力製品は「麒麟一番搾り」で、おいしさの秘密というか、他のビールとの違いをレクチャーいただきました。

一番搾りとは、麦芽とホップを細かく砕き温水で糖化させ、最初に搾った麦汁が「一番搾り麦汁」でそれだけで発酵させて作ったビールが「麒麟一番搾り」だそうです。他のビールは、二番搾り麦汁も混ぜて作られているとかで、風味、こくで差が生じています。製造ラインを一通り見た後はお待ちかねの試飲です。一人3杯までということで、出来立ての「一番搾り」「同 黒生」「同 プレミアム」を飲み比べることになりました。個人的には「プレミアム」が良かったですが、限定生産のため常時販売はしていないそうです。そう聞けばほしくなるのが人の常で、今回はお土産でこの「プレミアム」をご用意させていただきました。ゆっくり家でご堪能下さい。

次回もまた、楽しい企画を考えますので、よろしくご参加ください。



平成 30 年 10～12 月期 委員会・部会活動

＜総務関係＞

10. 4 総務委員会（平成 30 年度第 4 回）
- ・ H30 年度上期活動状況報告について
 - ・ H30 年度上期収支報告について
 - ・ H30 年度第 2 回理事会運営について
 - ・ 創立 20 周年記念事業の準備について
 - ・ 秋～年末の行事計画について
 - ・ その他

＜調査研究・広報 関係＞

開催なし

＜流通 関係＞

10. 5 お客様相談窓口連絡会（平成 30 年度第 3 回）
- ・ 各社のお客様対応事例について
 - ・ ユーザーマニュアル（マキシングペン編）
 - ・ その他
- 12.14 お客様相談窓口連絡会（平成 30 年度第 4 回）
- ・ 悪質グループの定義とその対応ガイドライン
 - ・ 各社のお客様対応事例について
 - ・ ユーザーマニュアル（マキシングペン編）
 - ・ その他

＜技術国際 関係＞

10. 2 技術国際委員会（平成 30 年度第 1 回）
- ・ H30 年度上期各部会活動報告について
 - ・ その他
 - 1) 海外規格調査ならびに情報共有
 - 2) JIS S 6049（電動・手動鉛筆削り）改正
11. 5 シャープペンシル部会（平成 30 年度第 3

回）

- ・ ISO 20318、JIS S 6005（シャープ 芯）に関する経過報告
 - ・ JIS S 6013（シャープ ペンシル）改正について
 - ・ その他
- 11.20 製品安全小委員会（平成 30 年度第 3 回）
- ・ 安全関連情報について
 - ・ 筆記具安全基準について
 - ・ その他（情報交換他）
- 12.11 マーキングペン部会（平成 30 年度第 3 回）
- ・ JIS S 6037（マキシング ペン）の 5 年見直しについて
 - ・ 公文書用マキシング ペン ISO 提案について
 - ・ その他
- 12.13 ボールペン部会（平成 30 年度第 3 回）
- ・ ボールペン類（油性、水性、ゲル）JIS 改正について
 - ・ その他

＜JIS 改正 関係＞

- 10.19 JIS S 6006（鉛筆、色鉛筆、芯）改正原案作成委員会（第 1 回）
- 12.10 JIS S 6013（シャープ ペンシル）改正原案作成分科会（第 1 回）
- 12.20 JIS S 6005（シャープ ペンシル用芯）消費生活技術専門委員会
- 12.21 JIS S 6006 改正原案作成分科会（第 2 回）

＜全文協との共催 関係＞

- 10.10 知財リーダー会議
11. 7 知財リーダー会議
- 11.29 知財三団体交流会

お知らせ

★平成 31 年 第 18 回通常総会

第 18 回通常総会の日程が決まりました。

日時 平成 31 年 5 月 24 日（金）17:00～

場所 上野精養軒にて

※本年は役員改選の年となります。

★JIS S 6005（シャープペンシル用芯）改正

- ・ ISO 20318（一般用シャープ ペンシル及びその芯）に整合させるため改正。最終審議も通過し、H31.2.20 付で公示（発行）される。

★ISO 20318-1, -2（一般用シャープペンシル及びその芯）新規制定、発行

- ・ 2015 年に日本から新規提案してプロジェクト登録された案件で、part 1 はシャープペンシル本体、part 2 はその芯で 2 部構成となっています。

- ・ 2019 年 1 月 1 日付けで最終投票（FDIS投票）の承認が得られましたので、2 月中には発行となる予定です。

（このプロジェクトに携われた方々には 4 年間にわたって本当にお疲れ様でした。）